



「高尾道」の道標

一見自然の石に見えますが、「右芦くら道」  
左たかを

と刻まれているのがわかります。江戸後期のものとみられており、上今諏訪の慈眼寺の西にあります。諏訪神社から通るこの道がもともとの高尾へと続く高尾道です。そしてこの地で分岐し右へ行けば芦安方面へ続くのです。ここは文化年間(※2)の絵図にも描かれており、古くより多くの方がこの道を通って高尾へ訪れていたことや、この地がかつてのメインストリートの分岐点であったことなどを伝えてくれています。



「清明池(井)」

小笠原の旭町にある道祖神と水神の脇にあるコンクリートの囲い。ポピーの花がきれいですが、かつては手押しポンプもついていた共同井戸(右写真)で、青色で「清明池」と記されています(左写真)。

水に困っていた小笠原の地で、陰陽師で有名な安部清明が占い3つの井戸を掘り当てたという伝説があります。実際に清明が来たかは不明ですが陰陽師の占いによって井戸を掘り当てたという伝承は興味深い話です。この時掘り当てた3つの井戸は、ひとつは枇杷池内、もうひとつは十日市場内、そしてこの旭町の清明池と言われるのです。

何気ないモノに潜むストーリー もっと知りたい!

エントランス展示

モノ  
「古民具が語る南アルプス市の歴史」  
～ぼくたちは、ガラクタじゃない!～

期 間:開催中(9/14まで)  
会 場:ふるさと文化伝承館  
時 間:9:30~16:30  
入館無料・木曜休館

お問合せは282-7408まで

「縄文王国山梨連続講座①」

モノ  
「石が語る南アルプス市の  
縄文世界(仮)」

日 時:7月3日(日)  
会 場:ふるさと文化伝承館  
時 間:13:30~15:00  
講 師:保坂康夫(文学博士・山梨  
学院大学非常勤講師)  
申し込み不用・無料



「飯野専売支局」

飯野周辺の御勅使川扇状地上の村々は、明治時代には県内を代表するタバコの一大生産地でした。明治政府は「タバコ」を嗜好品として課税対象とし、山梨県全体を管轄として明治30年に「飯野葉たばこ専売所」を飯野に設置し、全県から集まるタバコを蓄えるために倉庫が大量に建てられたのです。それが「倉庫町」の名の由来と言われます。

この地名には、扇状地という稲作に向かない土地だからこそ、乾燥に強く、換金作物である「たばこ」に挑んだ先人たちの物語が秘められているのです。

明治32年には「飯野専売支局」となり、その敷地を示す境界石が今もひっそりと佇んでいます。(※1)

道端にたたく石のように、普段気にとめることのない何気ない風景の中に、実はその地域にしかないオリジナルなストーリーが潜んでいることがあります。もの言わぬそれらは地域の歩みを語る語り部でもあり、地域らしさを示す資源でもあるのです。

上段で紹介した三つの「石」は、いずれそれだけで紹介したいほどの物語をもっています。市内にはまだまだ沢山のもの言わぬ語り部がたずんでいます。それらは、その地域では当たり前前に知られているものもあれば、地域の方でも忘れ去られているものもあります。

みなさんの地域にもきっとあることでしょう。その地域のオンリーワンを語るものだから、ぜひ、地域の方々によって掘り起こして、守って、ストーリーを語り継いでいただきたいと思えます。きっとそれは地域の「魅力」や「誇り」へと育まれていくことでしょう。

※1 旧国道52号線沿い倉庫町北信号の北側付近。個人の敷地内にあるため立ち入ることはできません。

※2 江戸後期の1804年~1818年の間



路傍の石は語る  
何気ない風景の中に  
その地域だけの  
たったひとつしかないストーリーがある